

研究プロジェクトの報告会を行います！

こどもみらい館では、保育園（所）・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えた共同機構として、下記の3つのプロジェクトを開館5周年（平成16年度）を機に発足させました。このたび5年間にわたる各プロジェクトの研究成果をとりまとめ、下記のとおり報告会を実施します。皆様のご参加をお待ちしております。

日時	平成20年12月8日（月） 午後1時30分～午後4時50分
	1時30分～2時30分 2時40分～3時40分 3時50分～4時50分
会場	こどもみらい館第1研修室

乳幼児子育て支援研究プロジェクト

子育てサークル、NPO等と協働で、子どもが心豊かに育つための環境づくりなど、乳幼児の子育て支援のあり方についてトークショーやワークショップを行いながら研究をすすめてきました。

地域と結ばれた事例研究プロジェクト

地域に開かれた子育て支援コミュニティの核として保育園（所）・幼稚園が果たす役割や機能について、小学校や地域行事、福祉施設との連携事例をもとにして研究してきました。

就学前教育研究プロジェクト

国公立・私立の保育園（所）・幼稚園と協働で「『幼児期につけておきたい力』を育むためには、どのような環境や保育者の援助が必要か」「子どもの心の育ち」などをテーマに、公開保育や実践事例、エピソード記述を通して研究をすすめてきました。

Information

インフォメーション

研究・研修資料閲覧コーナー

こどもみらい館2階に、先生方の自己研鑽に役立てていただける資料や書籍を取り揃えたコーナーがあります。今回は、その一旦を紹介させていただいています。閲覧の際には事務室にお声かけください。

こんな資料はいかがですか？

保育通信

（全国私立保育園連盟）

昨年度の11月号から、**鯨岡峻さん**（中京大学教授）の「『エピソード記述』をとおして保育とは何かを考える」が連載されています。共同機構連続講座で「エピソード記述」に興味をもたれ、もっと勉強したいと思われる方は、ぜひご一読ください。

週刊教育PRO

（日本教育総合研究所）

「よう・ほ経営」のコーナーに、4号毎に1度、**秋田喜代美さん**（東京大学大学院教授）が、世界の保育情勢から新保育所保育指針・幼稚園教育要領まで、大変広い視座に富んだコンパクトな評論を連載されています。保育の振り返りと質の向上に繋がります。

保育所保育指針 幼稚園教育要領 小学校学習指導要領

平成20年3月に、新保育所保育指針・幼稚園教育要領が告示されました。自分の職種の指針・要領はしっかりと読み込んでおられることと思いますが、お互いの内容を読み合うことも大切ではないでしょうか。

また、今回改定された小学校学習指導要領には、「幼稚園や保育所との連携や交流」が明記されています。保・幼から小学校教育の理解を深めることも大切です。

平成20年度 共同機構研修会 第2回

平成20年7月12日(土)

京都市保育園連盟共催



求められる保育の専門性

講師 汐見 稔幸 白梅学園大学学長

白梅学園大学学長。専門は教育学、教育人間学、育児学。主な著書『乳児保育の基本』『子どものコミュニケーション力の基本は共感です』『親だから伸ばせる中高生の「学力」と「生きる力』』『親子のハッピーコミュニケーション』他多数。

幼稚園教育要領・保育所保育指針の改定がこれからの幼稚園・保育所に求めている最大の課題は、「家庭でどのような育ちをしても、就学までにはここまで育てます」と名言できるだけの専門性の向上です。

今の子どもたちの育ちの課題を切り口とした場合、保育者に求められていることは次のような5つの保育実践を展開するための専門性であると私は考えています。

- 1 必要に応じてじっと我慢したり、もう少し頑張ったりするといった力の弱さの克服です。協同的(集団)な遊びの中でよりダイナミックに面白く遊ぶ中で我慢することやルール意識も身につけるといふ保育を積み上げてください。
- 2 「考えたり工夫したり協力したりすることが楽しい」という育ちの幼児期における培いです。知的な育ちは感動を伴う体験の中でこそ育われます。本に興味をもたない子どもにも興味をもてるようにするなど、すべての子どもが就学までに一定の知的な準備ができるようにしましょう。
- 3 自分を肯定できる感情を育むことです。自分で選択させ、達成できた満足感を感じさせたり、他と共感できるようにしたりすることが大切です。共感とは人間の喜びとなりますが、競争して勝ったことが喜びになるとは限りません。
- 4 生の自然に触れる体験の充実です。人は、「自然と深くコミュニケーション」をもてた時に喜びを感じる存在です。
- 5 運動能力の低下の克服です。訓練ではなく、遊びを中心に楽しんで遊ぶ中で自律神経やホルモンバランスなど体を整える力も育てたいものです。

平成20年度 共同機構研修会 第3回

平成20年8月7日(木)

第10回地域教育フォーラム・イン京都講演会

生きものはつながりの中に

講師 中村 桂子 JT生命誌研究館館長

東京大学大学院修了後、国立予防衛生研究所、三菱化成生命科学研究所勤務を経て、早稲田大学人間科学部教授、東京大学先端科学技術研究センター客員教授などを歴任。平成14年4月より現職。また、第15回ダイヤモンドレディ賞、大阪文化賞など受賞歴多数。主な著書『自己創出する生命』『ゲノムを読む』『いのち愛つる姫』他多数。



「人間は生きもので、しかも、自然の一部」ということを忘れ、科学技術や金融経済を優先にしたために、自然を破壊しました。外の自然破壊が「地球環境問題」であり、私たち自身の内にある自然、つまり体と心の破壊が「人心の荒廃」です。「人間は自然の一部」と考えて、社会を組み立てていかない限り、両方とも解決しません。

「生きものはつながりの中に」という言葉は、生きものの本質を示しています。地球上には5千万種類もの生きものが暮らしており、しかも祖先は一つです。現存生物は、すべて38億年の歴史を持っています。この長い歴史とお互いの関係の中でつながっているのです。私たちはこの「つながりの中」にいる生きものの一つなので、便利だけをベースに社会を動かす価値観を生命を大切にしようとする方向に変え、「食べもの」、「健康」、「心・知」、「環境」特に水という問題を真剣に考える必要があります。

生きものをよく見つめると本当に生きる姿が見えてきて、生きることが素晴らしいと思えます。赤ちゃんは泣いたり、ぐずったり、時にはいやになります。でも一生懸命お乳を飲んでいるところを見つめると、何ともいえず可愛くなります。先生方も子どもの「生きている」あり様をよく見てください。必ず素晴らしいという気持ちが生れてきます。その気持ちで心をいっぱいにして、子どもと接してほしいのです。そういうことで皆がつながれば、暮らしやすい社会になると思います。

平成20年度 共同機構特別合同研修会 ————— 平成20年9月10日(水)

保健福祉局子育て支援部児童家庭課・保健衛生推進室保健医療課共催

福祉

～みんなの幸せ～

講師 石塚 かおる 児童養護施設つばさ園施設長



甲南女子大学卒業、児童養護施設つばさ園勤務。平成19年同施設長就任、現在に至る。近年の著書には、『子どもの援助と子育て援助』（共著）、『子ども虐待と援助』（共著）、『子どもの福祉と養護内容』（共著）がある。

児童養護施設は、『最後の砦』と呼ばれています。つばさ園ではできるだけどんな子どもも引き受けようと思っています。私たちがギブアップしたら、その子どもは本当に行く所を無くしてしまうからです。

とはいえ、子どもたちは18歳あるいは20歳までしか入所できません。その間に、子どもたちが将来、社会で自立していけるよう支援することが私たちの重要な役割です。

この10年で被虐待児の入所が多くなりました。その子どもたちも含め、安心して食べ、眠り、人間関係を築くことのできる環境を整えることにより、子どもたちの人権を守ることを最優先事項としています。そのために、体罰を否定し、子どもたちと話し合うことを大切にしています。

子どもたちの進路については、子どもたちのニーズを探り、子どもたち自身に合った環境を考慮しながら、そのニーズが実現できるよう、できるだけの支援を行っています。そのためには、私たちが、幅広い社会に対する視野と、人生に対する多様な価値観、深い許容量をもつことが、何よりも大切であると考えています。

施設の運営については、関係機関との連携を密にすることを大切にしています。何かが起こってから対処するのではなく、起こる前に今現在の子どもの姿をお互いに知り合っていることは意味のあることであり、内情を隠すのではなく、相談し合っていきたいと考えています。

結びに、私たちは子どもの親にはなれません。子どもにとっての親は本当の親だけです。子どもと親との関係を修復することも、私たちの重大な役割です。

平成20年度 共同機構研修会予告

京都市教育委員会保・幼・小・中連携推進事業・こどもみらい館共同機構合同研修会 実践研究発表「広げよう 地域ぐるみの子育ての輪」

発表者 大津 健二さん (京都市立近衛中学校長)
(発表順) 伊藤 進さん (京都市立錦林小学校長)
菅原さと子さん (私立聖マリア幼稚園長)
藤田 光子さん (京都市福ノ川保育所長)
金樹 順子さん (私立吉田幼稚園長)

コディネーター 堀内 孜さん (京都教育大学院連合教職実践研究科長)

日時 平成20年11月17日(月) 午後3時～4時45分

会場 こどもみらい館 第1研修室

共同機構研修会第6回

「発達障がい児と気になる子どもの見方と対応」

講師 友久 久雄さん (龍谷大学教授)

日時 平成21年1月23日(金) 午後3時～5時

会場 こどもみらい館 第1研修室

共同機構研修会第4回(秋田喜代美さん)と第5回(桑原知子さん)にも多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。次回のががやきでご紹介します。

Information

イ ン フ ォ メ ー シ ョ ン

共同機構研修会 平成20年度前期の研修会ビデオ・DVDができました

こどもみらい館では、講師の方のご了解をいただき、講演内容をビデオに収録し、園内研修に限って貸出しをしています。

New!

このたび、平成20年度に実施しました下記の研修会のビデオとDVD（今年度から新規作成）が完成しておりますので、ご活用ください。

貸出方法やこれまでの貸出用ビデオ一覧については、こどもみらい館ホームページ（<http://www.kodonomirai.or.jp>）をご覧ください。事業課（TEL 254-5001）へお問合せください。

神田英雄	桜花学園大学教授	子どもが「理解されている自分」を感じられるように	(5月 8日実施分)
汐見稔幸	白梅学園大学学長	求められる保育の専門性	(7月12日実施分)
鯨岡 峻	中京大学教授	いま改めて、保育の基本は何かを考える	
		第1回 子どもの心は育てられて育つ	(6月18日実施分)
		第2回 子どもを一個の主体として受け止めるとは	(6月25日実施分)
		第3回 いま、なぜ保育にエピソード記述が必要なのか	(7月 2日実施分)

Topics

トピックス

「みらいっこまつり」にきてね 12月19日(金), 20日(土)

わくわく ほっこり ふれあいの場 — 出会い つながり み～んなえがお —

京都市保育園連盟「エアマットであそぼう」、京都市私立幼稚園協会「子どもワクワクコンサート」、京都市保育士会「親子でいっしょにあそびのおもちゃ箱」、京都市営保育所長会「赤ちゃんふれあいコーナー」、京都市立幼稚園長会「クリスマスの飾りをつくろう」、地域の自治会による「お茶席」をはじめ、人形劇やジャグリングなどたくさんのイベントが予定されています。

保育園(所)・幼稚園の保護者の方にお誘いいただくとともに、先生方もぜひとも一度遊びに来てください。

なお、18日(木)、19日(金)、20日(土)の3日間は、みらいっこまつりとその準備のため、開館時間が午前9時から午後5時までとなっております。ご注意ください。

編集後記

11月になり秋の気配も深まってきました。本園の子どもたちは、30年以上前から「双ヶ丘を園庭のように」を合言葉に小さいクラスから年長まで1年を通して出かけています。秋は特に実るものも多く、ドングリはもちろんシイの実や芝栗なども持ち帰り、子どもたちの口を楽ませてください。また、赤や黄色など様々な色に色づいたきれいな落ち葉なども集めて製作に使ったりします。

最近空き地などもなくなり、子どもたちの「遊び場」と呼べるところが少なくなってきました。「遊び」は子どもの発達の原動力です。双ヶ丘のように自然の恵みを感じながらのびのびと遊べる場所を、これからも守り続けるのは大人の責任と感じています。

研究・研修部会委員
高本 まゆり (洛西保育園主任)

— 子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。
(「子どもを共に育む京都市民憲章」より)—



発行日 平成20年11月10日
発行者 京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001
Fax (075)212-9909
URL <http://www.kodonomirai.or.jp>